

第三者意見



東京都市大学環境学部教授
幸せ経済社会研究所所長
枝廣 淳子

環境・社会面の方針や取組をわかりやすく伝える報告書になっています。特に、車両や駅などの施設、運行システムなど、あらゆる面で省エネ・低炭素化の技術を開発し、実用化しつつけていることを高く評価します。

今後のCSR・環境経営及び環境・社会報告の改善に向けて、何点か述べます。

1つめは、グローバル企業としての意識と視座をより前面に打ち出してほしいということです。東京メトロは、世界主要都市の1つである東京の交通の5分の1を担う、世界にとっても地球にとっても重大な企業です。完全民営化に伴い投資家もグローバル化するでしょう。自信を持って、国内・社内だけでなく、グローバルな認識を示してください。

まずは、トップがグローバルな環境・社会の情勢をどのように考えているのか、その中で自社の役割をどのように位置づけているのかを語ってほしいと思います。

世界にとっての大きな転換点になるであろうSDGsとCOP21のパリ協定締結後に出される最初の報告です。気候変動とともに生物多様性や水のひっ迫など、グローバルな環境問題への視座を求めます。また、社会面でも自社の社員の待遇だけではなく、貧困、格差の拡大など、現在の日本が直面している社会的課題にも取り組む姿勢を求めます。

長期的なビジョンも求められます。現在の2020年の環境目標「総エネルギー使用量2009年度実績より増加させない」にはパリ協定が反映されていません。省エネに再生

可能エネルギーも組み合わせることで、CO₂排出量の削減を目標にしてほしいと思います。その際、パリ協定で世界がコミットした「実質的にCO₂排出ゼロ」の方向性を念頭に目標を設定する必要があります。

環境面では、全社的に環境意識を啓発し、行動につなげていく取組を進めてください。環境教育の受講者数や環境イベントの参加者数の報告はありますが、社員数から考えると、より全社的な取組が必要です。

自らのエコ化で、廃棄物の削減の進展はすばらしいですが、資源の投入側の報告も求めます。建築資材の種類と量、木材調達の現状、グリーンな木材調達の基準の有無などです。森林問題は大きな世界的な課題として投資家も注目しています。

社会面では、人権へのさらなる取組が求められます。ダイバーシティは女性や障害者が対象となっていますが、LGBTや外国人労働者、高齢者などへの方針も求められます。

報告全般について、制度や調査の存在だけでなく、どのように運用され、どのような課題認識と改善につながっているかを報告してください。たとえば環境教育、ヘルプライン、コンプライアンス意識調査、セクハラ防止など。

最後に、グローバル企業を目指し、英語での情報発信の強化を求めます。「東京メトロの技術で世界のCO₂を減らす」という気概で、世界へのより積極的な情報発信を望みます。

東京メトロの環境・社会面での取組とその報告・情報発信がさらに進化することを楽しみにしています。

□ 第三者意見を受けて

枝廣様には、貴重なご意見を賜り、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。当社の施設等における省エネ・低炭素化の取組に枝廣様から一定の評価を頂いた一方、グローバルな環境問題への視座の醸成やパリ協定を反映させた長期的な目標の設定を、とのご意見を頂きました。また、環境教育の拡充、よりエシカルな経営への取組など、当社が取り組むべき課

題に関しましても大変有用なご指摘を頂きました。これらを参考とし、国際都市「東京」を支える鉄道事業者として、今後も社会環境活動を推進してまいります。



総務部長
長谷部 昭二